

いちご次世代施設園芸コンソーシアム視察研修

11月16日にいちご生産者がメンバーの SS-ネットが、園芸研究所、筑西管内いちごほ場でいちご次世代施設園芸コンソーシアムの視察研修を行いました。

園芸研究所においては、本ぼ定植後に花芽分化を促進する技術であるクラウン冷却の実証ほを見学しました。野菜研究室の研究者からは、クラウン冷却によって頂果房と一次腋果房の花房間葉数が1.5～2枚少なくなり収穫間隔をつめることができると話をいただきました。

筑西管内においては、茨城県いちご経営研究会の会長である鷺谷氏のほ場を見学しました。昨季もクラウン冷却を行っており、鷺谷氏は増収となった結果に非常に満足しているとのことでした。また、クラウン冷却の他にもいちご苗の底面給水等の省力化にも熱心に取り組み、常に技術の研鑽を行っていることから、視察した生産者からは多くの質問があがりました。

普及センターは管内生産者の技術力向上のため、これからも地域間の情報交換を行うことで、産地の生産力が向上するように支援を続けていきます

鉾田地域農業改良普及センター(成長産業)

